

日本市場の未来潮流



日本市場の未来潮流



序

未来におけるマクロ環境の変化は、消費者の行動に影響を与え、市場に新しい潮流をつくりだしていく。もし成長を望むのであれば、経営者は、その潮流をつかみとり流れに棹ささなければならない。目先の市場動向にとらわれ、大きな流れを見失っているのは、流れ着く先に繁栄はありえない。

市場とは需要が作り出すものであり、需要は究極的には消費者の欲求が生み出すものである。よって、市場の潮流を読み取るためには、消費者の欲求のトレンドを理解しておけばよいということになる。消費者とは生活者であり、消費の欲求とは生活の欲求を意味している。つまり、未来における生活者の欲求がどのようなものとなるかを予測することこそが、未来の市場潮流を予測することと同義と言えるわけだ。

そこで、以下では日本の未来における生活者の基本的な欲求を、いくつかのテーマごとに区分し分析することで、そこに形成される未来市場の潮流を予測していくことにしよう。

「衣」市場



市場の特性・現状

日本人は、服装に気を遣う民族である
しかし、消費支出に占める衣料費の割合は大きくなく、低価格志向が根強い
高級品を買って長く使うよりも、低価格品を使い捨てる傾向にある
制服やダークスーツが好まれるように、人と同じであること、目立たないことがよしとされる

格差拡大

一層の低価格志向
支出抑制・市場縮小
数量・価格 両面で低下
富裕層市場拡大
超高級品需要

新技術開発

技術志向
国産品志向
清潔志向
快適志向
心理的效果

高齢化

若年層減少→市場縮小
医療等 他支出優先
→ 一層の市場縮小
流行による買い換え減少
高齢者市場開拓余地

環境問題

リサイクル・リユース
MOTTAINAI → 消費削減
クールビズ
→ 既存紳士服縮小
→ 新たな市場期待

ライフスタイルの多様化

脱同一性志向の動き
自己表現手段
一点豪華主義
本物志向
趣味重視

その他マクロ環境

人口減少・市場縮小
ネット販売増加
→ ニッチ市場開拓
中国との対立(貿易減)
景気低迷

トレンド予想

日本経済の低迷・将来不安から衣料費支出は削減傾向が続く
ファッションに興味をもつ若年層が減少するため、市場は縮小を免れない
ファッション性よりも、機能的・付加価値が訴求ポイントとなる
富裕層を中心に、個性の発露・こだわり・本物志向の需要拡大が期待される

「食」市場



市場の特性・現状

食の基本は、安全・安心と健康にあり、自然志向、国産品志向が根強い
食を楽しむ文化があり、食と季節や風土、伝統行事などが結びついている
一方、食料品支出額で、2011年にパンが米を初めて上回るなど、食の傾向は変化している
所得格差の拡大や、輸入食品の増加から、安価な食品を選択する層も増えているようだ

環境問題

原発事故・風評被害
中国産食品への不信
酸性雨等による収穫減
フードマイレージ
ヴァーチャルウォーター

グローバル化

世界的食糧需要の増大
安価・大量生産食品流入
TPP等による農業衰退
成型肉、添加物等懸念
ブランド化国産品は値上

高齢化

食市場の縮小
和食志向・肉消費減
調理容易性追求
→ パン、肉食
健康食品・機能的食品

新技術開発

養殖技術の進歩
米の転用
高付加価値食品
野菜工場
遺伝子組換え食品

格差拡大

食文化崩壊危機
栄養バランス悪化
→ 肥満・健康悪化
食の二極分化
→ 牛丼店 or 高級店

その他マクロ環境

人口減少による市場縮小
地産地消
ナショナリズム拡大
食文化の多様化
中国の大量輸入

トレンド予想

食の安全に対する強い欲求は衰えることはない
中韓との関係悪化などを背景としたナショナリズム高揚の影響もあり、国産品志向は続く
一部国産品はブランド化、プレミアム化し、一般庶民は入手困難となる
景気低迷、所得格差拡大から、日本メーカーが海外工場で製造した輸入食品の需要は拡大する

「住」市場



市場の特性・現状

人口減少から、住宅市場は縮小を免れず、住宅販売戸数は減少を続けている
電力不足やエネルギー価格高騰を背景に、省エネ志向が高まっている
老朽化した都市インフラの再整備、IT基盤の整備が求められている
スマートシティ構想の環境整備が進められている

IT技術の進歩

スマホ・タブレット
高速ブロードバンド
家電のIT化
テレマティクス
スマートグリッド

ライフスタイル多様化

賃貸需要拡大
都心居住・田舎暮らし
セカンドハウス
単身者向け住宅
コーポラティブハウス

人口減少

都市集中・地方衰退
空き家増加
都市再開発
コンパクトシティ
住宅面積増加

環境問題

環境共生住宅
HEMS
太陽光発電
高気密住宅
リフォーム

高齢化

独居・高齢者世帯増加
バリアフリー
グループホーム
介護・医療サービス付き
高齢者マンション

その他マクロ環境

新産業推進政策
スマートシティ・ITS
耐震・液状化対策
電力需給逼迫
富裕層拡大

トレンド予想

人口減少社会の到来により、住市場の量的な拡大は期待できない
しかし、IT活用によるスマートシティを筆頭に質の向上は巨大市場として期待される
成長分野であるIT産業の推進、エネルギー需給の問題、幅広い産業分野への波及効果から
政府も積極的に推進政策を展開しており、主要産業となることが確実視される

「医」市場



市場の特性・現状

日本人の健康志向は強く、その効果で平均寿命は世界のトップクラスにある
予防医療や栄養管理、メタボ対策などの充実から、健康達成度も高く、健康寿命は世界一
国民医療費の対GNP比は先進国中では世界最低水準にある
平均寿命の伸長から高齢者が増加、医療費負担が増えるというジレンマが発生している

高齢化

医療費増加
医療保険制度崩壊危機
予防・健康増進需要
介護サービス需要
補助器具・車椅子等

グローバル化

メディカルツーリズム
(インバウンド・アウトバウンド)
医師の流入流出
看護師の流入
外国医療方針の進出

新技術開発

医療用ロボット
先進医療技術
iPS細胞・再生医療
遺伝子治療
新薬開発

都市集中

地方の医師不足深刻化
医師労働環境の悪化
都市における過当競争
病院の倒産・破産
IT活用による解決策

格差拡大

医療保険制度崩壊危機
← TPPアメリカ圧力
先進医療の高額化
自由診療の拡大
移植・再生医療

その他マクロ環境

少子化による、産科
小児科志望者の減少
大気汚染・土壌汚染
放射能など環境悪化
食糧高騰・栄養バランス悪化

トレンド予想

医療市場、健康市場、介護市場は拡大することが確実視される
政府の財政悪化、医療費の増加から、医療保険の制度改革、自己負担増加は避けられない
先進医療、医療ロボットなど高額医療の発展から、医療の格差が拡大する
アメリカの圧力による社会保険縮小、民間医療保険市場へのアメリカ資本進出が拡大する

「楽」市場



市場の特性・現状

余暇・レジャーに対する潜在的な需要は拡大が続いている
経済の低迷から、余暇にコストをかけることは難しくなっている
人口減少・高齢化により、市場規模は縮小を免れないでいる
安価なレジャー、時間消費型レジャーに拡大の気配がある

ライフスタイルの多様化

趣味・娯楽の多様化
→ マス市場の消滅
健康志向・自然志向
家庭重視の増加
社会貢献・地域活動

IT技術の進歩

SNS拡大
スマホ・タブレット
ソーシャルゲーム
IT活用による予約・情報収集

高齢化

時間消費型余暇需要拡大
健康志向・自然志向
ガーデニング・農業体験
平日需要 → 稼働率向上
旅行サポート需要

グローバル化

インバウンドの拡大
政府の政策的推進
中韓との関係悪化
→ 拡大にブレーキ
レジャー用品低価格化

格差拡大

中間層減少、貧困層拡大
→ 余暇需要減少
ネット・無料余暇
高級リゾート拡大
富裕層需要の海外流出

その他マクロ環境

人口減少 → 市場縮小
都市集中 → 地方衰退
自動車運転容易化(ITS)
→ 国内旅行需要
LCC成長

トレンド予想

一億総中流下でのマス市場は消滅し、多様化したレジャー市場が発展する
リゾートや遊園地は淘汰が進み、廃業に追い込まれるものが増加する
富裕層向けの市場は拡大が限定的、中流層向け市場は縮小する
SNSやソーシャルゲームなどレジャーのデジタル化がさらに進行する

「知」市場



市場の特性・現状

日本は平均して教育水準が高く、知識欲、学習意欲が高い民族である
経済停滞から、自己啓発・能力向上の必要性を感じる者が少なくない
クオリティオブライフを向上させる、趣味教養の学習にも一定の需要がうかがわれる
ネットの普及などから、情報収集にコストをかけようとする傾向が見られる

ライフスタイルの多様化

経済的豊かさから
精神的豊かさへの移行
社会との「絆」
趣味の多様化
私生活・家庭重視

IT技術の進歩

インターネットによる
情報収集
→ 安価だが問題も多い
SNSの拡大
スマホ・タブレット

グローバル化

知識集約型産業への移行
職業能力向上の必要性
Off-JT・自己啓発重視
英語・IT・国際会計
大学9月入学制

格差拡大

貧困の連鎖対策
(貧困世帯の教育支援)
公立学校の再生
IT弱者対策
(高齢者・地方)

高齢化

団塊世代大量退職
→ 職業技能承継に混乱
技能研修の必要性拡大
再就職のための学習
余暇趣味の学習需要

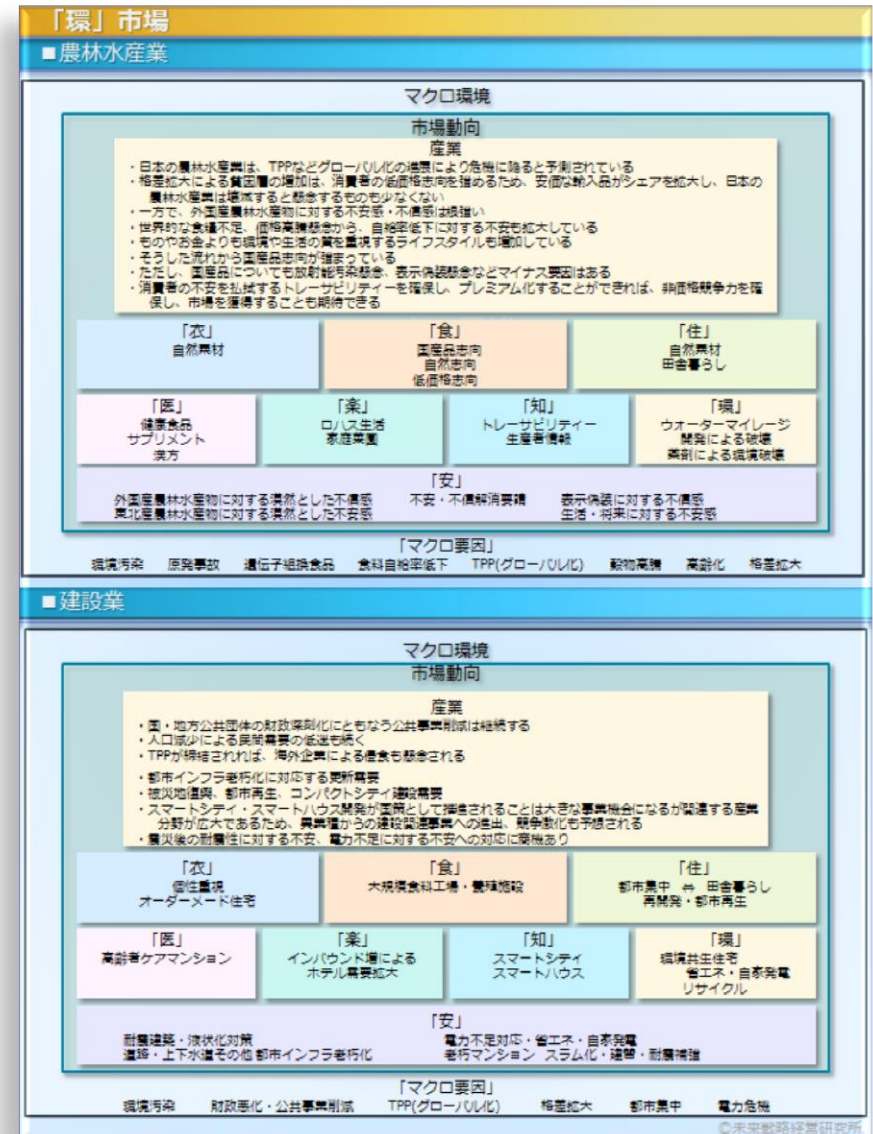
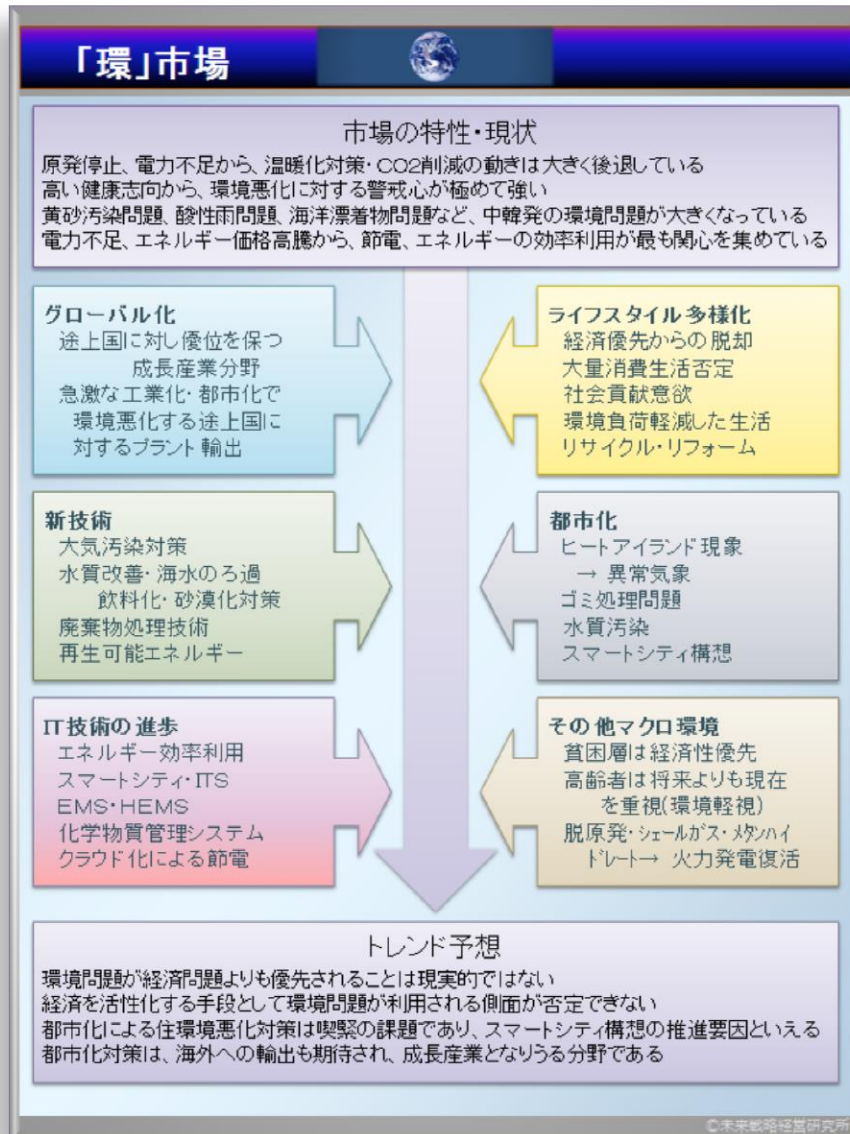
その他マクロ環境

少子化 大学全入時代
大学進学率上昇
大学過剰、大学経営破綻
地方の教育空洞化
教育制度改革

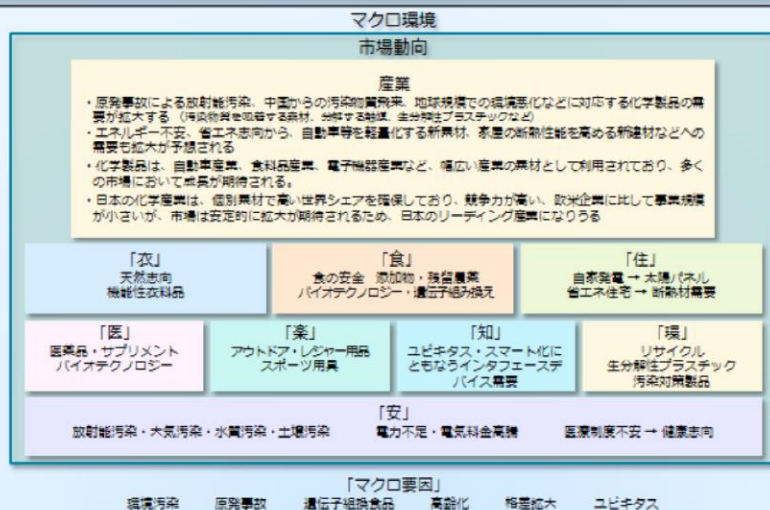
トレンド予想

経済低迷を打開するため、ビジネスマンのスキルアップは必要性が大きく高まる
企業全般で通用するゼネラリストから、専門分野に強いスペシャリスト養成が求められる
大学進学率は向上、基礎レベルは一定水準にあるため、知識集約型産業への移行は十分可能
趣味教養に関わる知識は、SNSなどネット利用で低コストに学習する傾向が強まる

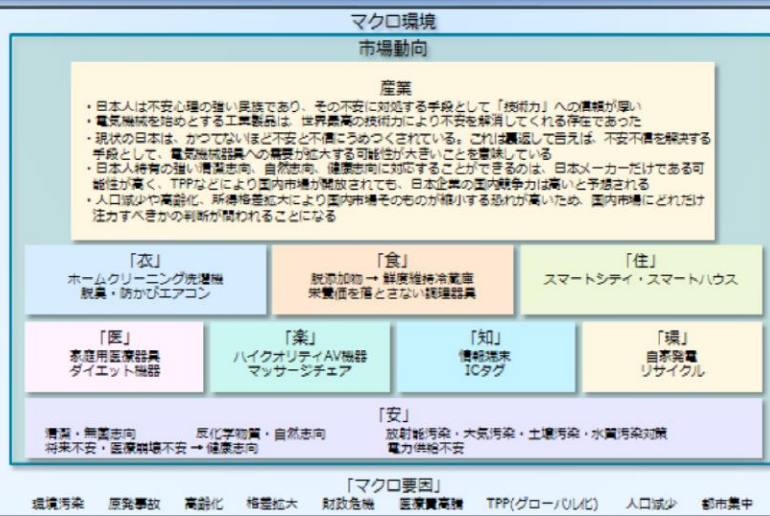
<産業別軸>



■化学工業

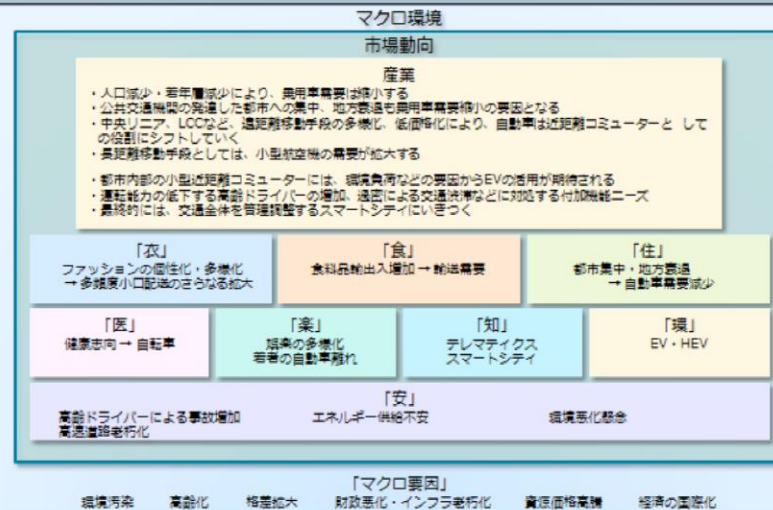


■電気機器器具製造業

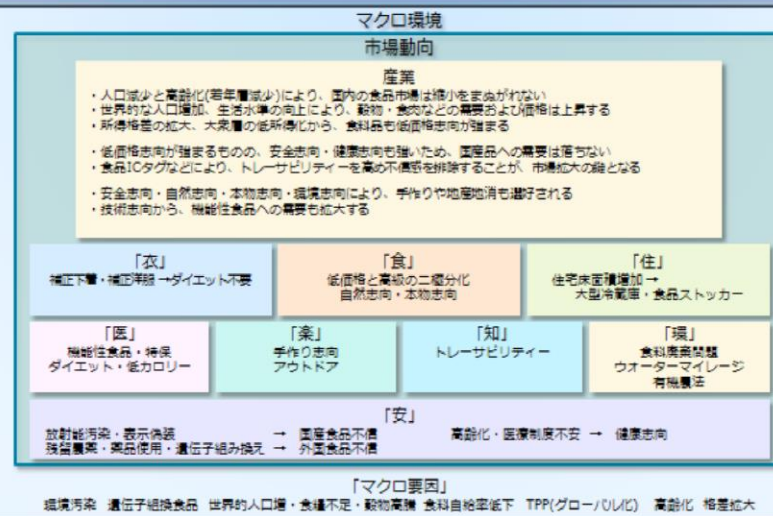


©未来戦略経営研究所

■輸送用設備製造業



■食料品製造業



©未来戦略経営研究所

■金属製造業

マクロ環境

市場動向

産業

- ・国・地方の財政悪化による公共工事の減少、人口減少による住宅需要の減少、自動車需要の減少を背景とする製造業の不振などから、金属需要の结构的な停滞は避けられない。
- ・老朽化都市インフラの再整備需要、コンパクトシティ建設など都市再生、IT活用によるスマートシティ建設など、巨大需要は存在している
- ・継続的に拡大が期待される情報関連機器をはじめ、あらゆる産業の基材であり、技術革新の期待は大きい
- ・日本企業は、基盤的な技術開発力が高いため、新市場・新需要を開拓しよう

「衣」 機能性衣料品(紅毛線) 岩盤浴効果、遠赤外線、発熱 イオン発生等	「食」 高級調理器具	「住」 都市インフラ再開発 住宅需要減少	
「医」 抗金属アレルギー素材 人工関節・インプラント	「楽」 若年層自動車離れ	「知」 情報処理端末、光ファイバー 情報端末等素材需要	「環」 リサイクル 環境破壊 有害金属による汚染対策

「安」

都市インフラ老朽化・都市衰退 → 居住環境悪化懸念
人口減少・地方財政破綻 → 地域破壊
地上型需要 → 金属価格高騰、資源争奪、レアアース/レアメタル不足

「マクロ要因」

環境汚染 資源高騰 人口減少 都市集中・地方衰退 価値観多様化 高齢化・健康志向

■卸売業

マクロ環境

市場動向

産業

- ・人口減少から、日本市場の全体的な縮小は避けられず、商品の流通量は減少する
- ・市場の価値観多様化は継続、中間マージン排除のため、卸中抜きも進む
- ・一方、価値観の多様化から流通商品は多品種少量化が顕著となるので、卸排除がコストアップとなるリスクもあり、異業によっては卸の役割が拡大する
- ・地方都市の衰退、地方市場の縮小に大手卸の全国展開が重なるため、地方の中小卸は淘汰される
- ・多品種少量小口配込に適合し、情報提供機能の高いインターネット販売が業界を変動させる可能性が高い

「衣」 SPAの隆盛 → 卸中抜き 流行の多様化 → 卸機能の関与 ネット販売の増加	「食」 輸入食品の増加 食生活の多様化 地産地消	「住」 地方衰退 → 地方卸の衰退、大手露出	
「医」 医薬品特許切れ ジェネリック、市販薬	「楽」 趣味の多様化 → 多品種少量販売	「知」 流通商品の増加 情報提供機能	「環」 多品種小口配込 複合資材

「安」

食の安全・表示偽造不備
輸入品の品質不安(有害物質、性能・アフターサービス)
都市機能喪失、買い物難民

「マクロ要因」

価値観の多様化 格差拡大 人口減少 都市化 環境汚染 食料自給率低下 TPP(グローバリゼーション) 高齢化

■小売業

マクロ環境

市場動向

産業

- ・人口減少により市場は縮小する。特に地方での縮小が著しい
- ・他店競争激化する大手小売店との価格競争、価格競争不足などから、中小小売店は淘汰が進む
- ・都市圏では、都市再開発により小規模店舗が淘汰、地方ではロードサイドの大型店舗に需要転移が顕著なため、都市・地方それぞれで、高層ビルを中心に買い物難民が多数発生する
- ・インターネット販売の増加は続く。ネットスーパーなど、日用品分野でもネット販売が拡大する
- ・現時点では、ネット通販利用の少ない高齢層であるが、人口構成上多数となっていくため、この層をネットが取り込んでいくのが、リアル店舗が対応していくのが動向が注目される

「衣」 特定SPAの一人勝ち 趣味の多様化による、ニッチ市場向け大 高層ビルファッション	「食」 地産地消 一人世帯の増加 → 少量販売	「住」 都市集中・地方衰退 商店街の衰退、買い物難民	
「医」 市販薬流通増加 ドラッグストア隆盛	「楽」 趣味・娯楽の多様化 → 市場細分化	「知」 ICタグ・トレーサビリティ 商品多様化・商品知識	「環」 多品種小口配達

「安」

景気低迷による将来不安 → 消費抑制
環境悪化に対する不安 → 消費行動の変化
食・健康に対する不安・不信

「マクロ要因」

価値観の多様化 格差拡大 人口減少 都市化 環境汚染 食料自給率低下 食料価格高騰 高齢化

■金融・保険業

マクロ環境

市場動向

産業

- ・人口減少、日本市場の縮小が懸念されるため、企業向け融資、個人の住宅ローン、自動車ローン、教育ローンなど、従来の主要融資案件は、減少が予想される
- ・同時に、住宅関連の火災保険、住宅総合保険、自動車保険などに対する需要も減少する
- ・顧客の選択にともなう医療費の増大と、高齢化による医療需要の拡大から医療保険が拡大する
- ・医療保険分野に対しては、外資の攻勢が予想される
- ・TPP参加の場合、医療の開放、中小生保の倒産、外資による買収が懸念される
- ・長期的に資金需要の増大が予想される。資金需要は金融市場に依存しているが、増大によりさらなる資金需要の減少が予想される中で信用発行が抑制されるため、金余り、デフレ進行も懸念される

「衣」 ネット販売の増加 → カード決済 振込決済増加	「食」 食品需要のリスク増大 (食中毒・リコールetc.) → 保険	「住」 住宅需要減少 → 住宅ローン 火災保険減少	
「医」 公的保険適用外医療の拡大 → 民間保険拡大 医療ローン	「楽」 若者の自動車需要 → 自動車ローン減少 自動車保険減少	「知」 消費者の情報収集力向上 銀行・保険会社の差別淘汰	「環」 環境ビジネスの拡大 環境汚染賠償リスク

「安」

新自由主義、格差拡大に対する反発
財政破綻、ハイパーインフレ懸念
年金制度・医療制度破綻懸念 → 将来不安

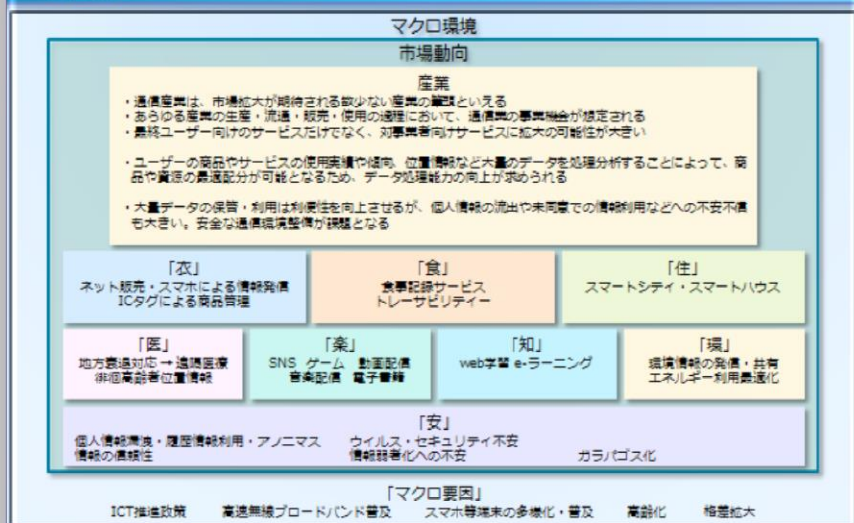
「マクロ要因」

財政赤字拡大 社会保障予算増大 高齢化 人口減少 格差拡大 TPP(グローバリゼーション)

■不動産業

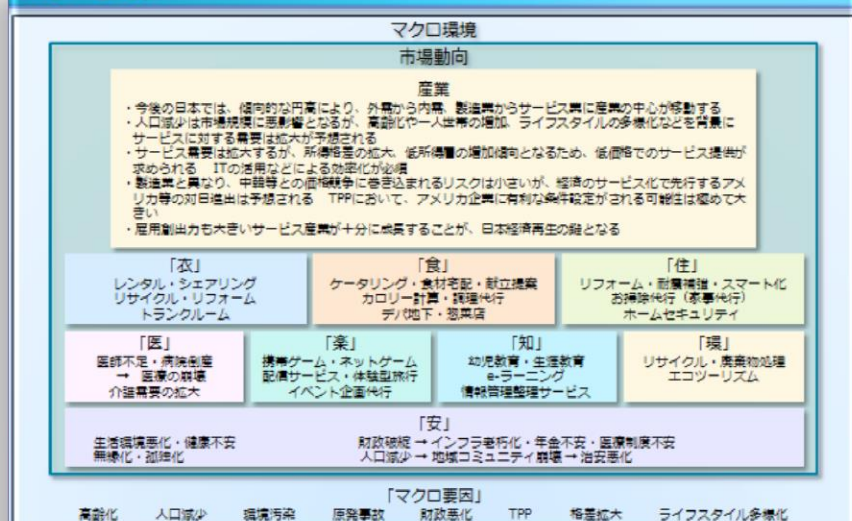


■通信業

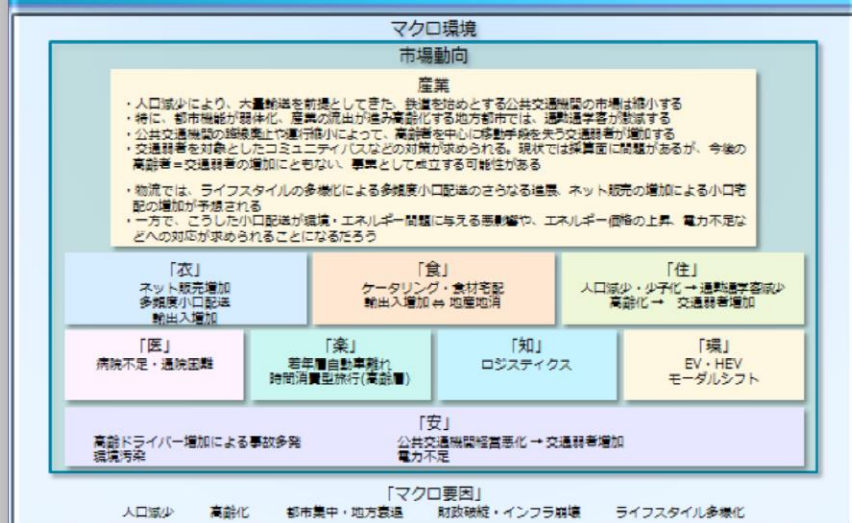


©未来戦略経営研究所

■サービス業



■運輸業



©未来戦略経営研究所